書きも書いたり㉕

樋口健夫

高野雲というピンピン元気なマルチタレントがいる。

彼は大手の出版社の有名月刊雑誌の元編集長だった。会社を離れ、自分で仕事をするようになって数年経つが、慣れたプロのライターでもあり、出版のコーディネーターをしたり、自分で編集をしている。多彩な知識と無数の知人のネットワークを持つ。ハンサムで背が高い。

彼はミュージシャンでもある。バンドのメンバーで、ベースを弾く。私は何度か彼の演奏を聴きながら、酒を飲んだことがある。ラジオ番組にも出ていて、「分かりやすいジャズ」をモットーに、アーティストをインタビューしている。

10年以上前に、私の出版したアイデアマラソンの本を、高野氏が読んで賛同し、ノートの重要性を自分のブログで言及した。それに私が応える形で付き合いが始まった。

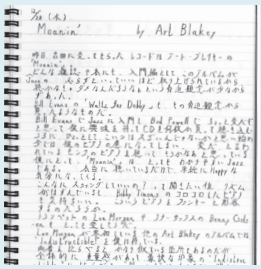
その彼から、今年の初めに電話があって、「手書きノートでジャズを聴くという本を出版します」という。「ぜひとも読んで欲しい」ときた。

その本「超・音楽鑑賞術！」（高野雲　ヤマハミュージックメディア）を入手して、読み始めた。読み始めて、驚いた。そこには彼の音楽歴だけでなく、筋金入りの真のジャズ愛好家の手書きノートの提案が書かれていた。

音楽を聴くためのノート術

学生時代にジャズにのめりこんで、一挙両得とばかりジャズ喫茶でアルバイトを始めて、聞いているだけでは、タイトルも演奏家も覚えない。お客の要求や問い合わせに応えられないでは、ジャズ喫茶は勤まらないと、彼は大学ノートにデータを手書きで記録し始めたのだ。実にこまめに音楽日記を書いている。このようなデータを書いていたからこそ、自分の音楽観が明確になったのだろう。本書を読めば、誰もがジャズを聴きたくなる。

今まで、ジャズを場当たり的に聴いてきた私も、この本を読んで、「そうか、このような聴き方があるんだ」と、目からうろこの思いである。耳を使うだけでなく、指にも目にもジャズを聴かせている。この本の後半は具体的に、音楽鑑賞の実践編である。女性ヴォーカルや、ロック、クラシックまで拡がり、そしてもちろんジャズに至るきわめて多彩で、ユニークな案内書になっている。



もっと知りたい方は、本書を読んで欲しい。書評のような内容になったが、この本からは、手書きの感想の効果の素晴らしさを味わうことができた。

常にノートを書き留めることでは、私の主義と同じだ。自分で自分のデータを書き残し、積み上げて、見事に深い専門知識を得ている。

このように、書きに書いたりを、様々な趣味やホビーに活用できる。ジャズだけではない。高野氏の本の中にも言及されているがクラシック音楽だって同じだ。また、何かを集めるような趣味も、手書きのノートが生きてくる。

今日、私は私の学生時代のファイルを整理していた。当時のノートやら、ファイルが詰まっている段ボールが3つ見つかった。この中にも、今の私に通じる道があるのだろう。

樋口健夫（ひぐちけんお）

「アイデアマラソン発想法」考案者。ノート研究家。エッセイスト。大阪工大、電気通信大学、非常勤講師。商社マンとして21年間海外に駐在。50ヶ国以上訪問。アイデアマラソンの代表作「一冊のノートで始める力・続ける力をつける」（こう書房）と、「グループ・アイデアマラソン発想法」（ジャストシステム）、「稼ぐ人になるアイデアマラソン仕事術」（日科技連出版社）がある。

http://www.idea-marathon.net をご訪問ください。連絡も取れます。

最新刊！

仕事ができる人の
アイデアマラソン企画術

ソニーマガジンズ

毎月、新しい企画を求めて苦労してきた私も、この本には感心した。読みやすい。誰でも納得できるはず。本コラム愛読者の必読の名書。（Bun2編集部U）